

フレッシューズからベテランまで いま知りたい心房細動治療

急速な高齢化社会を迎えている日本において、加齢に伴って有病率の増加する心房細動は日常診療で数多く遭遇する疾患である。心房細動は心機能を低下させるのみならず塞栓症のリスクを高める。このため、その治療には脈のリズムや数をどのようにコントロールするかという問題と、塞栓症の治療をどのように組み立てていくかという問題に対処する必要がある。脈のリズムコントロールにおいては肺静脈のアブレーションが非常に多く行われるようになってきており、抗不整脈薬のみの時代とは大きくその様相を変えてきている。また、直接経口抗凝固薬(DOAC)の登場から10年たち、臨床現場での使用方法もかなりこなれたものになってきている。さらに左心耳閉鎖術の登場で、抗凝固療法を行いにくい患者に対する治療を提供できるようになってきている。心房細動に対する診断と治療は日々進歩しているといえる。

さて、本特集では、一般医家でも非常に多く遭遇するこの疾患に対し、まずはどのような対処が必要で、どのような患者を専門家に回せばよいのかなどの疑問点に関して答えを出せるような章立てから始

めることとした。プライマリ・ケアの医師がまず何を行うべきなのか、どのような患者を専門医に紹介すべきなのかを最初にまとめていただいた。次に、特に抗凝固療法にまつわる様々な問題点、合併症に対する注意事項などに関して一般医家のみならず、専門病院の勤務医あるいは循環器内科医以外にも知っておいていただきたい内容に関して簡潔にまとめていただいた。さらに最近のリズムコントロールの方法とその注意点に関して、電気的除細動、薬物による除細動あるいはアブレーションについてもまとめて記載した。最後には新たな診断法として、植込み型ループレコーダーなどのデバイスによる診断に関して記載していただいた。

本特集は現時点における心房細動治療の最新の知識がまとめられている。まずは患者のゲートキーパーとなる一般医家から、紹介される側となる医療機関の医師にとっても参考になる情報をコンパクトにまとめた。また、図や写真も多く含まれており、医師以外の方にとっても非常に内容の濃い読み物になっている。本特集が心房細動治療にかかわるすべての方にとってお役に立つものと確信している。

北里大学医学部循環器内科学
阿古潤哉